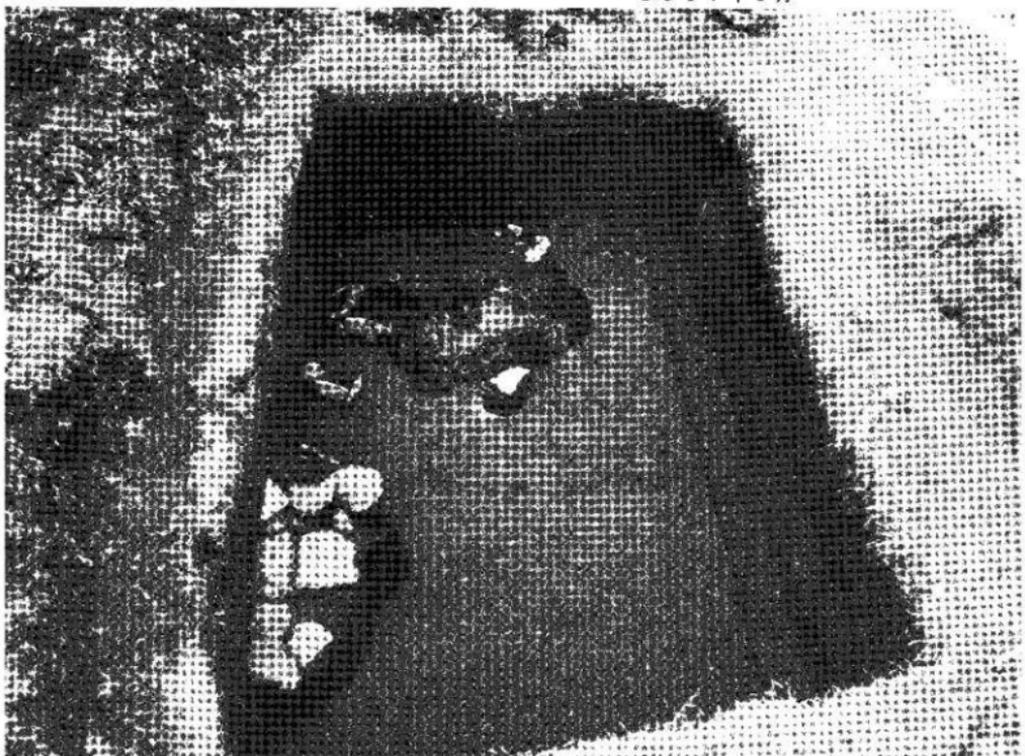


滝原Ⅲ遺跡

送電線路支持物建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997年3月



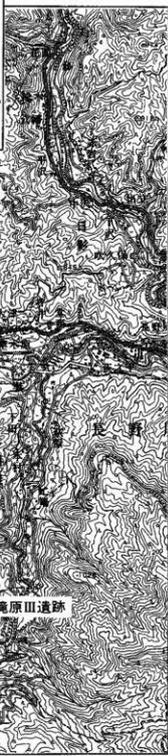
群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

例言

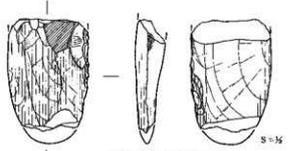
1. 本書は東京電力㈱の送電線路支持物設置に伴う調査報告である。
2. 調査概要は以下の通りである。

遺跡名	滝原Ⅲ遺跡
所在地	長野原町大字応桑字滝原1119-3
調査期間	平成8年10月24日～ 同年11月15日（発掘調査）
調査面積	15㎡
調査委託者	東京電力株式会社
調査主体	長野原町教育委員会
調査担当者	白石光男・唐沢友之
3. 本遺跡出土物及び記録類は、長野原町教育委員会が管理、保管している。
4. 発掘調査及び報告書作成に協力してくれた方々は以下の通りである。（敬称略、順不同）

萩原 俊夫（土地所有者）	蜂須賀 義装義	萩原 実	山口 正太郎	桜井 光照
萩原 弘	蜂須賀忠行	篠原 忠	技研調査㈱	(株)前橋文化財研究所



★ 滝原川遺跡



● 打製石片（頁岩製）
両端を欠損する。全体に使用による表面の摩耗著しい。
長さ(6.6)cm、幅4.2cm、厚1.5cm。



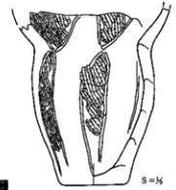
● 石核（黒曜石）
長さ(4.7)cm、幅3.2cm、厚1.6cm。



▲1号住居跡と石。 (北西より)



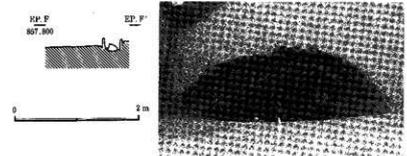
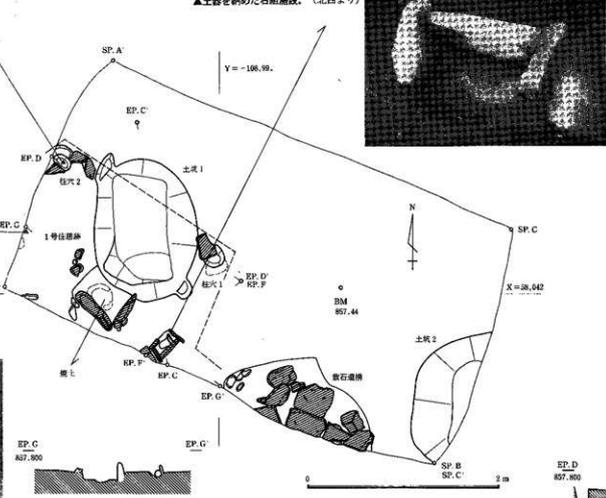
▲土器を納めた石箱施設。(北西より)



● 敷石住居入口施設に納められていた縄文土器。
口縁部を欠く深鉢、体上部に波状文を刻み、体下部に逆U字形を刻める。区画内に彫刻の縄文文様。
高さ(1.7)cm、口径(13.8)cm、底径5.0cm、加算目尺4式。

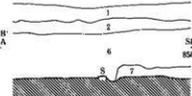
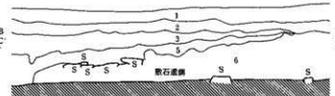
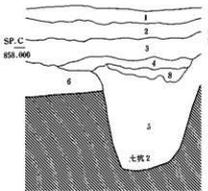
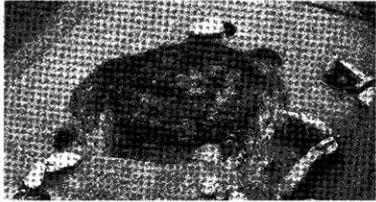


● 土器を握えて止めた石片。
左 長さ5.3cm、幅4.0cm、厚0.7cm。
右 長さ4.8cm、幅2.9cm、厚1.5cm。



▲土坑2 (陥し穴、東より)

▼土坑1 (陥し穴、西より)



1. 耕作土
2. 褐色土層：水田底土、踏まわって硬い。所々にロームを含む。
3. 褐色土層：土質は柔らかいが締まりはある。粘付も少し有り。
4. 明褐色土層：ローム粒を含む。軽石粒(D軽石か?)少量含む。
5. 黒色土層：土質は柔らかいが締まりはある。粘付があり所々に軽石粒(D軽石か?)を含む。
6. 暗褐色土層：土質は良く締まり強い。粘付も有り、全体に軽石粒(D軽石)を含む。土層陥しみ深。
7. ローム層：締まりがあり粘付に富む。1号住居跡陥り込み確認面。
8. ロームブロック

1. 調査に至るまで

平成8年6月 13日	送電線支持物が埋蔵文化財包蔵地に関係するか確認・協議する。
平成8年8月 2日	設置場所の下見をし、試掘調査について協議をする。
平成8年9月11.13日	試掘調査を2ヶ所で行う。その内1ヶ所で遺構、遺物を確認する。
平成8年9月 19日	埋め戻し作業を実施する。
平成8年10月24日～11月14日	調査を開始する。住居跡、敷石遺構、炉跡、箱状の石組、陥し穴を確認する。
平成8年11月 15日	埋め戻し作業を行い、調査終了。

2. 遺跡の環境と立地

長野原町は群馬県北西部吾妻郡内の西南に位置する。町北部は高間、白根の両山系からなり、吾妻川が西から東へ流れ河川流域を形成している。南部は浅間山により形成された裾野が広がり、浅間高原地帯となっている。

今回発掘調査対象地域はこの高原地帯を流れる熊川の段丘上に位置する。面積は広くないが口当たりのよいならかな傾斜地であり、滝原という集落もある。

3. 調査方法

試掘調査後、本調査は手作業と考えたが、この地域は11月に入ると雪も降り、調査が困難になるため重機による表土除去を行った。その後、鋤削等を行い遺構、遺物の検出に努めた。遺構は土層観察後精査し、実測図面及び写真に記録した。測量基準は公共産物から位置を水準点から高さを取め基準とした。(遺跡の標高 BM=857.44m)尚、遺構名については、長野原町教育委員会刊の「長野原町の遺跡」より使用した。

4. 遺構と遺物

●1号住居跡

調査区南西部に位置し住居跡北半分を検出した。南東方向に入口施設のある住居と思われる。規模は推定2.1m×2.4m。炉跡は方形の石囲い炉で北西方向の石はない。中央に竈土が認められた。柱穴は2ヶ所で確認され板状の石が敷点敷かれていた。柱穴2の中から石片が検出した。柱穴の規模は柱穴1一径15cm、深さ35cm。柱穴2一径20cm、深さ45cmを測る。また入口部付近には箱状の石組施設があり、中に縄文土器が口縁部を北東方向に向け、横になり納められていた。底石は、上器を安定させるため楕円形の凹が付けられ動きにくい横2石の小石が敷かれていた。規模は20cm×35cm。出土土器は縄文中期後半加曾利I4式と思われる。上器の中から骨粉らしき物が認められた。今後分析を行いたい。

本住居跡は石組施設、板状の敷石などから考慮。敷石住居跡の可能性が高いと思われる。

●敷石遺構

調査区南東壁際より板状の敷石が検出した。敷石は南方向調査地域外まで広がる様だ。本遺構は1号住居跡の床面より27cm上のレベルで1.68m×0.64mの範囲で検出したが、全体形状は不明である。また、1号住居跡との関係では本遺構は6層半後後に作られていることから、両者の間には時間差があると考えられる。

●土坑1(陥し穴)

調査区北西部から検出。長軸を南北方向にもつ。土線で1.1m×1.51m。底面で0.55m×1.14m、深さ1.16m。方形の断面である。形状から考えて陥し穴と思われる。また、1号住居跡と重複関係にあるが、掘込み層位(6層)の関係から住居跡より新しい物と考えられる。出土遺物なし。

●土坑2(陥し穴?)

調査区東壁際より検出。大半が区域外であったため、形状は不明である。深さ、掘込み面から1.33m。土坑1(陥し穴)と掘り込み層位が同じであるため、同時期に作られると考えられる。本遺構も陥し穴と推測される。出土遺物なし。

5. 終わりに

現在、長野原町では、ハッ場ダム関連による発掘調査が群馬県埋蔵文化財調査事業団の努力により進んでおります。このことにより町北部の吾妻川流域では、縄文の世界や古代の実態が徐々に明らかになってきております。しかし、南部高原地域では調査の機会が少なかったため実態が不明確でありました。今回復いた面積でありましたが、この地域で発掘調査し、貴重な資料が得られたことは大変意義のあることと思われまふ。今後、遺跡の全容がわかることを期待したいと思います。最後に発掘調査及び本報告書作成にあたり、御支援、御助言頂きました関係諸機関、関係者各位に深く感謝し終わりの言葉と致します。

報告書抄録

ふりがな	たきはらさんいせき
遺 名	滝原III遺跡
所 在 地	送電線路支持物設置
番 次	
シリーズ名	長野原町埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第6巻
著 者 名	白石 光男
編 者 名	群馬県吾妻郡長野原町教育委員会
編集機関所在地	〒377-13 群馬県吾妻郡長野原町大字吾妻174 TEL. 0279-82-4517
発行年月日	西暦1997年3月25日

ふりがな	ふりがな	コ	ド	北	東	調査期間	調査面積	調査所
所在地	所在地	市町村	遺跡番号	緯度	経度			
滝原III遺跡	群馬県吾妻郡長野原町大字吾妻174	10401	152	36度31分3秒	138度36分59秒	1996.10.24~1997.03.25	150㎡	送電線路支持物設置に伴う工事調査

所在地	所 属	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
滝原III遺跡	縄文	縄文	住居跡(敷石住居)1軒 敷石遺構 1軒 土坑(陥し穴) 2基	縄文土器、打製石片、石片	

長野原町埋蔵文化財報告書第6巻

滝原 III 遺跡

発行	平成9年3月25日
編集	長野原町教育委員会 社会教育課
発行者	長野原町教育委員会 〒377-13 群馬県吾妻郡長野原町 大字吾妻174 TEL. 0279-82-4517
印刷所	上毎印刷工業株式会社